

オホーツクの風

平成27年4月15日(水) 0012号

発行所

北見赤十字病院の
明日を考え支援する会
事務局

北見市緑ヶ丘1-10-16

Tel 0157-61-0684

がんの最前線 緩和ケアとは 講演と懇談

平成27年3月2日、当会の平成27年度(第6回)総会の終了後、記念事業として、「講演と懇談・がんの最前線 緩和ケアとは」を午後3時から旧東館4階の日赤大講堂で、講師に後明先生そして病院の安藤師長、部川師長、総務課長さんをお招きして開催しました。

開演に先立ち、会 ご紹介しようと思ひます。

の谷川代表が挨拶、その中で本日の講師・後明先生のご経歴を紹介し、講師にバトンを渡した。

緩和ケアとは

今日のテーマは「緩和ケアってなんだろう」ということですが、全体の構成は、前半は緩和ケアの最大公約数的な一般論をお話し、そして後半はできたばかりの緩和ケア病棟、私はピヨピヨ病棟とよんでいるんですが、12月1日に来たばかりですのでピヨピヨ云々ってまず、その写真がありますので、スライドショーみたいにして



後明先生の講演。報道席に取材記者さんも着席。

そもそも緩和医療学という学問は、日本では30〜40年前にできました。欧米では60〜70年前から取り組んで居ます。緩和ケアというのは緩和医療学の臨床実践のことです。

① がんの終末期、再発進行がんの時期

② ある種の神経筋疾患、神経難病の進行期・終末期

③ エイズなど現在の医学、医療はとて

もそれに太刀打ちできるほど発達していないのです。

現時点ではそれを治そうとするキュアの医療がもはや期待できない、そういう場面に遭遇し、そうなる身体的精神的にきわめて深刻な状況になります。

このような状態にある患者と患者家族の幸せを願って、派

(後明郁男講師の経歴) 福島県立医科大学卒業、1976年・大阪大学付属病院麻酔科、1984年・箕面市立病院麻酔科、2005年・紀和病院緩和ケア科、2007年・彩都友協会病院緩和ケア科、2012年・北見赤十字病院緩和ケア内科部長兼院長補佐に就任。



生しておこるさまざまに不愉快な症状に焦点をあてて、可能な限り抑え込む、それを症状緩和、ケア的な治療といえます。

日本は少し遅れぎみですが、臨床学、薬理学、生理学、きちんとした統計的な処理をするなどして臨床的な証拠を集めて治療法を見極めていっています。

痛みと呼吸困難の緩和

がん終末期にはさまざまな身体症状と精神症状が生じます。

身体症状としては、身の置き所のないこわさ、だるさ、咳、呼吸困難、吐き気、嘔吐、お腹がぼんぼんに腫れて痛い、食欲不振、口内炎、止まらないしゃっくり、あるいは便秘や下痢、吐血や下血などがあります。一方で精神症状としては、エネルギーが枯渇して、抑うつ状態となり、あせりや不安で気持ちが落ち着かない、眠れない、せん妄という意識障害をおこすことも往々にあります。(2面につづく)